

第 17 回 SC 国内分科会委員長会議報告

下記の内容で第 17 回 SC 国内分科会委員長会議を開催しました。

- ❖ 日 時 2015 年 7 月 16 日 (木) 13:30～17:00
- ❖ 場 所 東京トラック事業健保会館 4 階 第 1 会議室
- ❖ 出席者 横山委員長, 土井副委員長, 中谷副委員長, 田井顧問, 伊藤本部 A3 委員長,
各 SC 国内分科会委員長 (A1 松本, A2 門脇, A3 香山 (代理: 吉田), B1 田中,
B2 寺島 (代理: 山川), B3 川北, B4 牧野 (代理: 田畠),
B5 菅沼 (代理: 石川), C1 藤岡, C2 三川, C3 根岸, C4 新藤, C5 浅野,
C6 林, D1 穂積, D2 岩崎), 幹事団 (福井, 上原, 北山, 松田, 廣瀬, 中地,
小林), 若手ネットワークメンバー他 (A1 田中, B1 幸山, B2 松野, B3 野口,
B4 田畠 (再掲), C2 花井, C5 入江, C6 吉永, 荻原, D2 矢野, 平),
事務局 (水村)

❖ 議事内容

0. 開会挨拶: 横山委員長

お忙しいところ, また台風の中 SC 国内分科会委員長会議にご出席いただきありがとうございます。SC 委員長におかれては, 論文委員会に引き続いての出席, また SC の中で対外的にプレゼンス向上への協力をいただき, ありがとうございます。昨年に続き若手の方にも参加いただいていますので, 遠慮なく質問などをお願いしたい。本日は長丁場となりますがよろしくお願いします。

1. 幹事交代挨拶: 中地幹事

- ❖ 7/3 付けで中部電力今川幹事から中部電力中地幹事に交代したことが報告され, 中地幹事より就任の挨拶をいただいた。

2. 本部執行委員会報告: 横山委員長

- ❖ 5 月に東京で開催された本部執行委員会について以下の内容が報告された。
 - 東京での開催は 2004 年以来 11 年ぶり。
 - 今回は執行委員会と技術委員会の合同開催となった。
 - トピックスとして, 5/7 に Japan Day を開催。日本のローカルな地域のエグゼクティブと CIGRE 本部の間の情報交換を行った。

3. 本部技術委員会 (Technical Committee) 報告: 伊藤本部 A3 委員長

- ❖ 伊藤本部 A3 委員長より, 以下の内容で本部技術委員会について報告された。
 - CIGRE の将来の方向性, TC プロジェクト, CIGRE 関連行事の 3 テーマを議論した。
 - HVDC と配電がホットな話題であり, SCB4, C6 のみならず SC 全体で議論を行った。本部執行委員会との合同会議においても, 同様のテーマでのワークショップを行った。
 - 地域会議の活性化が本部技術委員会メンバーの大きな役割なので, 自分としては AORC の活性化が役目と認識している。ニュージーランド NC の立ち上げとニュージーランドでの会議開催などに携わったが, 相当な体力が必要。
 - 本部委員長に就任して 3 年でようやく地に足がついてきたが, 現在は後任者の任命が課題。

- 各地で開催される会議での基調講演をする機会が増えてきた。
- ❖ 資料 p2 の中段、「第 5 位は英国」はミスプリ。フランスだったかと思う。

4. 2016 年パリ大会論文梗概投稿状況について： 廣瀬幹事

- ❖ 廣瀬幹事より以下の報告があった。
 - 43 編の応募に対し、NC10 編、AA20 編を選定したため、不採択論文が 13 件と多くなった。
 - そのため、採択の進め方などについて SC 委員長から意見をいただきたい。
- ❖ 以下の議論があった。
 - C：以前は各 SC での採択論文数の上限が 25 編という制約があったが、今は外されており全体として採択論文数が増えた。SC アロットメントもあり、各 SC とも本部委員長に直接相談して採択論文数を増やす手段がある。JNC を通した Web 投稿だと上限の 30 編以上は受け付けられない。(伊藤本部 A3 委員長)
 - C：JNC のメ切以降類似の論文の合体の調整をしたため、メ切に間に合わないという理由で不採択となった。メ切後の合体作業では多くの会社に関係するので、JNC には日程的な余裕を持っていただきたい。(A1 松本委員長)
 - C：委員長の裁量で JNC のメ切より前に集約して調整している SC もあるので、委員長には工夫をしてほしい。(福井幹事)
 - C：論文メ切は HP で公開された情報であり、SC の委員以外から論文がメ切間際に投稿されることもある。その場合は委員長裁量で JNC のメ切前に集約することは出来ないので、JNC のメ切後に合体のための調整の時間を認めてほしい。(A1 松本委員長)
 - C：JNC のメ切から論文委員会までの間で、幹事団により論文梗概、推薦文を読み込み、評価（点数付け）を行っている。そのあたりのプロセスが各委員長に伝わっていなかった。(横山委員長)
 - C：JNC のメ切を先に公開しておけば良いのではないか。(C6 林委員長)
 - C：JNC のメ切を早めに Web に出すこととしたい。(福井幹事)
 - C：2 段構えの期限を設定してほしい。(A1 松本委員長)
 - C：論文を合体する話になると社内の合意をとるのに時間がかかる。(A1 田中若手 NW 代表)
 - C：先ほどコメントしたが、日本代表レギュラーメンバーから本部 SC 委員長に出す枠がある。(伊藤本部 A3 委員長)
 - C：30 の NC からの推薦枠を守ると、1/3 近くの論文を落とすことになる。メ切を守っていない論文を通すのは幹事としてはやりにくい。調整が間に合わないのであれば、SC 枠を利用するなどしてほしい。(廣瀬幹事)
 - C：合体前のバラバラの状態では提出していたので、それで評価をしてほしい。(A1 松本委員長)
 - C：バラバラの状態での評価は難しい。(廣瀬幹事)

5. JNC 理事会開催時の指摘事項と対応について： 小林幹事補

- ❖ 小林幹事補より、昨年 11 月開催の理事会で JNC の運営に関していただいた指摘事項と、それに対する JNC の対応の方向性について紹介があった。

6. AORC 理事会&CIGRE 本部理事会对応について： 上原幹事

- ❖ AORC 理事会&CIGRE 本部理事会对応について、上原幹事から下記内容が報告された。
 - 今回初めて C6 のパネルがキックオフとなる。日本も参加を要請されていたが、日本からは石川氏、江頭氏、関氏の 3 名がパネルに出席する。

- 日本からの論文投稿は 6 件。

7. 2017 年以降の SC 会議日本開催について： 福井幹事

- ❖ 2017 年以降の SC 会議日本開催について、福井幹事から下記内容が報告された。
 - 2017 年の日本開催の SC 会議は予定されていないので、2019 年に是非誘致をお願いしたい。
 - これまでは 2 年で 2SC の開催を目指していたが、今後は 1~2SC/2 年のペースでお願いしたい。
 - まだ日本で開催されていない、A1, B2, B5, C2, C5 を優先したい。
 - SC 会議で地域割りを設定している SC もある。

8. 若手ネットワークの活動状況： 田中若手 NW 代表

- ❖ 総会以降の若手 NW の活動状況が、田中若手 NW 代表から報告された。
 - 現在 16 名で活動しており、年に何回か集まって情報交換をしている。
 - 3 月の会議では各 SC でやっていることについて情報交換をして、非常に有意義であった。

9. 日本 CIGRE 国内委員会のウェブサイトについて： 北山幹事

- ❖ 2015 年の更新内容は、SC ウェブサイト、会員専用ページ、若手 NW のページの 3 点であることが、北山幹事から報告があった。
- ❖ 関連して、D2 岩崎委員長より、D2 のウェブサイトについて紹介があった。トピックとして、英語の勉強法、海外おすすめレストランなどを掲載している。
- ❖ 以下の質疑があった。

Q: 日本がコンビナーをやっている WG の資料を海外に配布するために、SC のウェブサイトに資料を置くことは可能か。(C4 新藤委員長)

A: 可能。(福井幹事)

C: その場合パスワードの機能が必要か。(D2 岩崎委員長)

C: 本部執行委員会報告の資料 p2 の 4. (2) に「SC、WG との協働ツールには、2015 年 12 月 31 日までに優先的に 80WG、2016 年 6 月 30 日までに 130 の追加スペースが用意されこと、が説明された」とあるので、本部のウェブサイトでも可能ではないか。(横山委員長)

C: 本部 SC の幹事がそのサイトの管理を行っている。(伊藤本部 A3 委員長)

10. CIGRE 会員数の状況と会員数増大について (お願い)： 松田幹事

- ❖ CIGRE 会員数の状況の会員数増大について、松田幹事より下記内容が報告された。
 - 現在日本はアジア太平洋地域で中国に次いで 2 位をキープしている。
 - 当面の目標であった等価会員数 800 を 2014 年度末に達成したので、今後は 1000 を目指していきたい。
 - SC 国内分科会委員長には、個人会員、若手会員、学生会員、への入会の働きかけ、事業維持会員の紹介をお願いしたい。
 - 各 SC メンバーの個人会員比率が 50%を下回っている SC には、是非会員比率 50%を目指して勧誘をお願いしたい。

11. 本部よりの TOR に関する対応状況について： 中地幹事

- ❖ 本部よりの TOR に関する対応状況について中地幹事から報告し、非会員の WG メンバー

の会員化のお願い、新規 WG の参画メンバーの確認のお願いを行った。

1 2. 2016 年 SC 日本代表レギュラーメンバー交代について： 松田幹事

- ❖ 松田幹事より、2016 年 SC 日本代表レギュラーメンバー交代について、以下が報告された。
 - 2016 年にレギュラーメンバー交代を予定している 5SC については、いずれも具体的な候補者が挙がっている状況。今後最終調整をしていきたい。
 - 現委員長は交代後も現役のサポートをよろしくお願ひしたい。

Q：寺島委員長が 2016 に交代する予定であるが、後任の電発委員の任期は（2016 年で電発が 8 年委員長を務めたことになるので、）4 年で考えていたがそれで良いか。（B2 山川委員長代理）

A：任期については個別に相談させていただきたい。可能であれば長い方が良い。（松田幹事）

1 3. CIRED からの要請（日本の参画）への対応について： 松田幹事

- ❖ CIRED からの要請（日本の参画）への対応について、松田幹事より以下の内容が報告された。
 - CIRED より CIGRE の人脈を通して JNC に対し、Liaison Committee (LC) 立ち上げの要請を受けている。
 - CIGRE 本部は配電分野の強化を指向している。
 - 今後 LC 立ち上げを前向きに検討したい。そのため、C6 メンバーと調整・相談させてほしい。また、各 SC にもご意見をいただきたい。

1 4. 各 SC における活動報告： 各 SC 委員長

- ❖ 各 SC 委員長から、各 SC の活動状況と予定等について、今年 2 月の JNC 総会以降の変更点を中心に説明。
- ❖ 主な報告内容は以下のとおり。

A1：新規の 4WG についてメンバーを指名した。現在 2015/9 開催のマドリッド大会の準備（論文 3 件投稿）を行っている。

Q：2019 年の SC 会議開催の可能性は？（福井幹事）

A：何も決まっていないので可能性はある。（A1 松本委員長）

A2：2015/9 開催の上海コロキウムに 8 件を投稿している。各 WG に対し、適宜日本メンバーを指名し活動に参画している。

A3：11 の WG 全てに日本メンバーが参画している。2015/9 開催の A3&B3 合同コロキウムの準備が佳境。

B1：約 20 の WG のほとんどに日本から委員を出している。終結しつつある WG が多い。2015/8 開催の AORC に 2 件の論文を投稿、同時開催のパネル B1 にも参画予定。

B2：JEC の改訂について、IEC TC17 と関係してやっている。委員長が多忙のため、委員長代行を設置した。2019 年の SC 会議はインドが手を挙げている。

C：2023 年度あたりをねらって前広に検討してほしい。（福井幹事）

B3：パリ大会では 3 件の論文を投稿。SCB3 は 3 つの Advisory グループと 4 つの Advisory エリアで構成されている。現在 12 の WG に対し 11 の WG に日本は参画している。2015/9 開催の A3&B3 合同コロキウムでは 66 件の論文を採択し、参加申し込みをした人はウェブサイトからダウンロードできる。

B4：2015/5 のスウェーデンのルンドシンポジウムでは、三菱電機田嶋氏が JNC の支援を受けて参加。同シンポジウムでは、自励と他励のハイブリッド、自励多端子などの発表が多く有意義であった。新設 WG3 件については、いずれも自励（VSC）に関する WG。

B5: 2015/9 開催の南京コロキウム of 準備を進めており、日本からは 2 編の論文を提出。WG B5.53 を来年東京で開催予定。2017 年の SC 会議はロシアが有力

C: 2019 年 SC 日本開催の有力候補なのでよろしくお願ひしたい。(福井幹事)

C: 前向きに検討中 (B5 石川委員長代理)

C1: 2015/5 のスウェーデンのルンドシンポジウムでは、若手技術者 (関電) が参加し、論文を発表。新規 WG3 件については、いずれも日本からの参加を申請中。中国から国際連系の可能性調査の WG を立ち上げたいとの打診があり、新 TOR を作成していくこととなったが、日本からの参加は未定。

Q: WG C1.29 は配電の計画の話か? (横山委員長)

A: 積極的に関わっていないが、そろそろ TB を発行予定。事故時の切替を考慮した計画の話かもしれない。(C1 藤岡委員長)

C: WG B4/C1.65 で HVDC の標準電圧を待っている状況。(上原幹事)

C: ABB から 325kV という数字が提案されている。(A3 伊藤本部委員長)

C2: 2016 パリ大会の Large Disturbance の発表候補として、2015/3 トルコ大停電、2015/3 オランダ停電、2015/3 皆既月食へのヨーロッパ TSO 間の協調などが挙げられた。3WG が終了もしくは終了予定。新 WG は 2 つが設置予定であるが、DSO と TSO の強調に関する WG には日本は DSO の概念がないので参加は未定。

C: 2019 年の SC 会議日本開催について B5 との共同開催をしては、との委員長からの意見がある。(福井幹事)

C: 検討していく。(C2 三川委員長)

C3: 現在休止中である WG3.01 国内分科会については、国内外で関連プロジェクトが立ち上がる動きがあり、分科会を再設置して本部の WG に積極的に貢献していくこととした。また、2020 年までの活動計画を策定した。

Q: 磁気閃光の実験の方向性は、ガイドラインをどちらの方向に持って行くのか? (横山委員長)

A: 磁気が強いところの実験をやるので、現行ガイドラインが厳しすぎるという方向か。ただ、商用周波数のデータはほとんどない。(C3 根岸委員長)

C4: 2015/5 スウェーデン・ルンドでの SC 定例会議において、2016 年に現在の Chair が退任の意向であることが分かり、本年末に向け新 Chair の選任作業が行われる。6 月の名古屋で開催の雷関係の国際会議に合わせ、7WG が開催された。

C5: WGC5.20 (市場の大きな変化の原因) と WGC5.21 (環境規制のインパクト) が新設の WG。2017 年の SC 会議はアイルランドのダブリンの予定。2019 年は未定。

C6: 7/7 に TOR が承認された WG C6/D2.32 は、関西電力松浦氏がコンビナーとなる。スマートメータを利用した将来のシステム像を描くことが目的の WG。AORC に Panel C6 が新設されることになり、2015/8 マレーシアのサバで開催されるキックオフミーティングに、中部電力、日立などから 3 名が参加予定。

D1: 多数の WG が開催されているが、日本はほとんどの WG に参加。WG は油浸、試験診断、ガス、固体の 4 つにカテゴライズされている。2015/9 のリオデジャネイロで開催の SC 会議に合わせほとんど全ての WG、TF が開催される。

D2: 2015/10 開催のペルー会議には日本から 6 編の論文を投稿。現在の SC のスコープは、スマートグリッド関連情報通信システム、BCP、災害復旧迅速化など運用保守高度化要求への対応、情報セキュリティ対策など、時代のキーワードを追いかけている感がある。

Q: 若手技術者交流会の参加人数が多いが、参加者には若手が多いのか? (横山委員長)

A：若手 10 名，一般 40 名といったところ。参加者は電力会社が多いが，講師は非電力の方にお願いしている。

Q：BCP についてはどのような感じで進められているのか？（田井顧問）

A：D2 の場合，各国の紹介が多い。（D2 岩崎委員長）

Q：情報セキュリティについてはどうか？（土井副委員長）

A：2015/10 のペルー会議で日本から出す論文の一つ（振る舞い検知によるホワイトリスト型ウイルス対策の導入について）がセキュリティ関連の論文。サイバーセキュリティについては，話題としては旬だが実務的な論文は少ない。セキュリティの話は公知の論文にはしにくいので，進め方が難しい。（D2 岩崎委員長）

（全体を通して）

C：若手育成について，参加する若手のメリットを出すために何をすれば良いか？CIGRE に来ている委員長などの偉い方に気楽に会えることか？とすれば，「CIGRE サロン」を開設し，それに若手に参加してもらうのが良いのでは。（D2 岩崎委員長）

C：CIRED の関係で事務局の考えがあれば紹介してもらいたい。（土井副委員長）

C：LC の立上げには前向きに対応したいと考えているが，具体的な体制としてどのような形態がいいかはこれから検討・調整していく。CIRED は配電がメインになるので，その分野で CIRED 対応の体制を立上げ，JNC がそれにうまく連携するのが望ましいと考えているが，C6 林委員長とも相談しながら検討を進めていきたい。（松田幹事）

C：LC については，窓口としての Obligation は少ない。他の SC も関わっているので JNC が窓口になるのが良いのでは？JNC 幹事団に一任したい。（C6 林委員長）

C：東京開催の本部執行委員会でも配電について議論した。8 月の本部理事会でも議論する予定。「C6 が一番関わっているので C6 が代表 SC として活動すべき」といった議論はあったが，決まっていない。（横山委員長）

C：HVDC と配電には全 SC が関わっている。本部側は，まだ何も決まっておらずゆっくり考えていきたい。CIRED との関係については，2014 年に共同の合意書にサインして始まった。CIRED は CIGRE の WG に参加し，CIGRE は CIRED のラウンドテーブルに参加することになっている。しかし，必ずしもうまくいっていない。（伊藤本部 A3 委員長）

C：日本においては CIRED との関係についてはこれからがスタートなので，好事例となるよう，うまく連携してやっていくべき。（土井副委員長）

C：LC を C6 がやると，他の SC は入らないのかという議論になる。C6 のスコープはシステムが中心である。（C6 林委員長）

C：機器単体の話は他の SC がカバーしている。（福井幹事）

C：CIGRE は JNC，IEEE は日本事務局などの対応箇所があるが，CIRED はない。また，電気学会だけでなく電気設備学会もあり，学会間のコミュニケーションも必要ではないか。（B3 川北委員長）

C：リエゾンの間は良いが，NC の時には学会との関係も考える必要がある。（福井幹事）

C：配電にはいろいろな団体関わっているのは事実。しかし，実務をやっている人間は重複しているので，うまく連携をとりたい。現在日本で CIRED の受け皿となる体制がないので，川北委員長の話はこれからの課題。まずはとにかく，情報収集に向け具体的な取組みを進め，その上で必要な検討をすればよいのではないかと。（土井副委員長）

15. 閉会挨拶： 土井副委員長

長時間の議論に感謝。今後の活動予定をご説明いただいたが、SC、JNC 事務局ともそれぞれ取り組むべき課題があるので、計画的に取り組み、活動のさらなる活発化に繋げていただきたい。CIRED の件も、皆さまからの協力を賜り進めていきたい。